

販売課
田村 慎平

10月の果実販売動向ですが、一般的に流通量は少なめとなり、価格は高めでの販売となりました。

ミカンに関しては柿と同様に、販売の中心として売場は広く確保されており、食味の評価の高さもあり強い引き合いがありました。高糖度など上位等級品に関しては入荷が少なく高値基調での販売となりましたが、全般的に入荷量はやや不足気味でも値ごろ感のある価格設定が出来ており、安定した荷動きとなりました。

は終盤となりましたが総体量は少なく、売場も他品目に比べまだ広くなかったため特に売価高となっている大玉を中心に鈍い荷動きが続きました。サンつがるの残量が例年より極端に少なく、その為高値基調での販売となりましたが、そのことが鈍い荷動きに拍車をかけてしまいました。そのような中でも企画販売の組まれやすい36玉・40玉に関しては一定の引き合いが見られました。

当農協では10月は国内向けの早生ふじ、海外向けのトキが販売の中心となりました。どちらに関し

今後リングに関しては、本県産早生ふじ、長野県産シナノスイートの終了とともに、一時的に市場の流通量が減少することが予想されます。その後、他県産ふじから順次晩生種の出荷が始まりますが、末端では売価高を理由に特に大玉果を中心に堅調な販売が続く見通しです。ただし、出荷が不安定になる期間があるため、在庫確保に向けて一定の引き合いはあるものと思われます。輸出に関して今後

はシナノスイート・むつ・世界一名月が中心となり、台湾・タイ・フィリピン・ベトナム・香港などへ出荷される見通しです。

11月下旬からは国内外の贈答向けがスタートし年末に向けて企画販売も組まれやすいシーズンとなつてくるため、厳しい販売が続く令和5年産ですが少しでも有利販売を目指してまいります。

品 種	つがる	早生ふじ	ト キ	きおう	サンジョナ	王 林	その他	合 計
単 価 (円)	3,309	4,646	3,683	3,116	4,724	3,826	4,542	3,712
前 年 比 (%)	134	151	132	117	101	118	120	137
販売数量 (箱)	613,796	369,396	159,659	152,226	624	760	54,626	1,356,087
前 年 比 (%)	69	72	79	97	31	543	68	74

4年続くご縁に感謝

10月6～8日の3日間、日本航空㈱のパイロットと客室乗務員の有志7名が管内に訪れ、管内のリンゴ園にて援農作業を行った。

2020年から始まった援農作業だが、今は、プライベートな活動として休暇を取得して園地を訪れている。それでも援農希望者が継続しているのは、口コミの力も大きい。今回の班長である吉田全さんは、社内でも「りんごの作業をしているときは無心になれる。自然を感じてピュアになれる体験は貴重」と、援農作業について、その良さを周囲に話しているという。今回初めて参加した客室乗務員の小林雅代さんは「素晴らしい体験だ」と同じ興味を持った。また別の季節にも園地を訪れ作業を行いたい」と笑顔を見せた。



空飛ぶ農業応援団との交流もまた貴重な体験だ

4年ぶりの視察研修

10月10日、北海道東北エリア最大のスーパーマーケットチェーンであるアークスグループのバイヤーや青果担当社員ら6名の視察研修を受け入れた。コロナ以前は毎年受け入れていた同研修だが、今年は4年ぶりの実施となった。

雨の降る中、清野一基さんの園地で早生ふじの収穫作業を行うとバイヤーらは「リンゴ農家は毎日大変。短い時間ではあったが、この経験を店頭スタッフにも共有し販売していきたい」と話した。

その後、販売課三上悟行部長の案内で選果場と冷蔵庫の見学をしたバイヤーらは、最後はリンゴ詰め作業を経験した。



慎重にリンゴを段ボールに詰めるバイヤーら

全共連職員による援農

10月12日から2日間、また19日から2日間、当JA管内リンゴ園で全国共連青森県本部職員延べ8名によるリンゴ栽培作業研修が行われた。これは毎年実施されており、受け入れ農家がその時の作業を指導し、職員は体験を持つて現場を理解するとともに、農繁期の労働力不足解消の一端を担っている。今回の受入先は、管内4園地で、それぞれ着色管理や収穫作業を行った。

成田信一さんの園地を訪れた職員は「リンゴが大好き。学生時代の授業で体験して以来の収穫作業。実を落とさないように気を付けた」と慎重に作業にあたった。



成田さんに作業を教わる全共連職員（奥2名）

農水省若手職員研修

10月12日、農林水産省の職員2名が、選果場の見学に訪れた。これは9月下旬から4週間、弘前市に滞在してリンゴ作業などを通して果樹栽培や地域について理解を深める研修の一部。販売課山内耕平センター長の案内と説明を聞き、同省経営局の工藤加奈さんは「単純に機械化を進めることは、良いことばかりではないと分かった。今回の研修を通して実感した農業の力強さを、これからの仕事に活かしていきたい」と感想を話した。農林水産省では、地域農林漁業の実態の理解促進を目的に56年前から全国を対象とした同研修に取り組んでおり、入省2～4年目の若手職員が各地を訪れている。



熱心に山内センター長の話を聞く農水省職員

東京から農作業に

10月28日から3日間、転職活動中の男性、所田裕樹さん（33）が紙漉沢の清野一基さんの園地でリンゴ作業をした。この方は以前、夏に津軽地方を訪れた際、リンゴが実った季節にまた弘前を訪れたいと感じ、デイワークで求人を探すも、駅からの移動や距離感が分からず、当JAの無料職業紹介所へ電話で問合せをしたという。フランスに5年間住んでいた経験から「津軽弁の発音はフランス語と似ている。弘前の街も相馬のりんご畑も心安らぐ。受入れてもらえて感謝しかない」と話した。

都市部在住者の農作業への興味関心が増しているときに、果樹産業は強いと実感した。この先も振興課では裾野を広く捉え、労働力不足解消および、リンゴ産業への理解促進に尽力する。



収穫をする所田さんと清野さん

企業援農ボランティア

11月4日、今年で10回目のJA青森中央会が行っている企業援農ボランティアが行われた。日本原燃株式会社や関連会社のNURの職員ら22名の参加者がそれぞれ管内10か所のリンゴ園地で作業にあたった。

日本原燃で企業援農ボランティアの募集をかけると、相馬の援農が人気だという。その理由として担当者の大淵さんは「受け入れ態勢があたたかいのと、なにより相馬のリンゴが美味しいから」と話した。収穫作業は各園地で王林、サンふじ、サン金星、飛馬ホワイトなど様々。参加者に話を聞くと、皆リンゴが大好きだと教えてくれた。「短い青森赴任期間中に、リンゴがこんなに美味しいと知ることができて嬉しい。来年も異動してйнаければ、同僚を誘ってまた参加したい」と笑顔で意欲をみせた。



ご夫婦で収穫作業に参加した方も

あなたのうちへ

福をマネ〜く

『家の光』12月号・1月号
購読申込受付中!

1月号
別冊付録

定価(税込)

- 普通月号 629円
- 付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円
- 家計簿付き12月号 1,027円

お申し込みは
お近くのJAへ

12月号
第1・第2
別冊付録

JAグループ 家の光協会

〒162-8448 東京都新宿区市谷河原町11

TEL 03-3266-9039

<http://www.ienohikari.net>

©umetigiri